



自然・ひと・体験

編集：日本野外教育学会広報委員会

発行：日本野外教育学会事務局

〒305-8574 つくば市天王台 1-1-1 筑波大学体育系野外運動研究室
TEL&FAX. 029-853-6339



第17回大会会場 東京海洋大学 越中島キャンパス

日本野外教育学会第17回大会（東京）直前案内

巻頭言	都市と野外教育	多田 聡	2
日本野外教育学会第17回大会実行委員会案内			3～8
九州・沖縄ブロック会議報告			9
事務局便り			10～11

巻頭言 都市と野外教育

多田 聡 (明治大学)

いよいよ第17回学会大会が、東京海洋大学で開催されます。そうは見えないとよく言われますが、私は東京生まれの東京育ち、職場も東京ということで、都会の人間がどの様に野外教育を展開できるのか、都市と野外教育の関係についてよく考えます。



道路で遊ぶ都会の子ども 昭和40年代

解剖学者の養老孟司は、「都市主義の限界」の中で「都市とは人工化であり意識化である。」「都会で排除されるのは、意識が作らなかったもの、すなわち自然である。(略) 脳のなかで実態を失った現実が、都会という人工物のなかに『実現』するはずがないではないか。そうした人たちにとって、雑木林とはすなわち『空き地』なのである。」と書いています。

都市で意識化が優位になる裏では、人間の意識が及ばない無意識の存在が低く扱われ、そのことで都市における多くの問題が発生しているといえます。無意識の活動、これが野外での活動、すなわち体験を重視した活動にあてはまるように思います。

哲学者の内山節は「『里』という思想」の中で、近代化について次のようにいいます。

「少し前までの社会では、人々は自然に歴史の時間軸を感じ取ることができた。(略) 語り継がれていく言葉、作法、習慣、行事、祭り、受け継がれた技。そういったすべてのものが、人は歴史的という時間軸とともに生きていくことを、自然に感じとらせた。(略) ところが現在では、自然に歴史を感じ取ることのできるローカルな世界が、弱体化している。私たちは次第に、歴史を感じ取ることのできない、都市の漂流民化していった。」

内山は都市における歴史の喪失について述べています。ここでいう歴史とは、暮らしている地域や家族における習慣や文化のようなものの継承ということです。こうした習慣や文化は、意識的に伝承されいくものだけでなく、無意識のうちに暗黙知として受け継がれていくものです。文化(思想や技術など)の伝承は、<教室ではなく>野外でこそ十分に学ばれる事柄の一つです。近代化の流れ、これを都市化といって良いと思いますが、都市の生活には、親から子へ、あるいは地域の中で子供が受け継ぐべき文化がますます少なくなっていると思います。

一方、やや希望が持てる文献として、アウトドアライターの芦澤一洋は「アーバンアウトドアライフ」に次のように書いています。

「理想郷に最も遠いのが大都会。(略) 公園緑地をはじめとする共有空間の欠落や、窮屈な個人所有地、それにビルボード(広告看板類)の無配慮、塵芥の散乱。どれをとってみても、東京は欠陥都市に違いない。しかしこの都市に生きる方がまったく断たれているわけでもない僕は考える。

この都市は強力な再生能力を秘めていると思うのだ。それを支えるのは、目まぐるしく成長する自然の力。この都会に、ほんの少し自然との共生心をふりかけたなら、たちまち心地よい景観、居住環境を獲得することができるような気がしてならない。それにはまず戸外の自然と付き合う人、その心地よさを知る人が多くなり、その人たちが都市の住人になることが必要ではないかと・・・。」

東京でも多摩地域はこれほどの状況ではないのですが、都心部では分からないでもありません。この本が出版された1984年から30年も経つわけですが、東京は良い方向に進んでいるのでしょうか。写真の子どもがどのように成長したか。よい例になることを祈ります。

東京は都市の見本のような街です。東京は野外教育を実践するには最悪の場所かもしれません。以前、本学会の理事である国際自然大学校の佐藤初雄さんが野外教育を実践している理由を「野外教育は、自然環境が豊かで地域の力がしっかりと整った社会では、本来必要のないものであって、今、それらが喪失してしまい、様々な問題が生じている時代だからこそ必要になっている。野外教育というような考え方がない社会のほうが健全なのかもしれない」という趣旨のことを講演で話されました。そういう意味では、東京はこの国で最も野外教育が必要な場所ということもできます。

都市が抱える課題に野外教育がどのようにアプローチできるのか。このテーマは、現在では東京だけの話ではなく、程度の差こそあれ我が国の多くの地域に関わる話になっているものと思います。この学会大会をきっかけに、こうしたテーマを考えてみるのもよいのではないのでしょうか。



水辺の風景にはまだ希望が・・・(隅田川)

日本野外教育学会第17回大会実行委員会あいさつ

◆ ようこそ 東京へ

米誌・フォーブス(電子版)は2010年1月22日付で「世界で最も美しい都市ベスト12」を発表し、東京は第12位にランクインしています。東京には皇居のような伝統的な美しさと、スカイツリーを中心に再開発された東京ソラマチのような、新鮮な魅力とが共存しています。

会場となる東京海洋大学越中島キャンパスは、明治丸をはじめとする重要文化財が点在した、落ち着いたある景観を有しています。大学周辺には門前仲町の街が広がり、近くに深川不動尊、富岡八幡宮があります。深川鍋や深川めしも有名です。門前仲町から東に地下鉄で1駅(木場駅)には木場公園と東京都現代美術館があります。キャンパスから南西に徒歩15分ほど足を延ばすと、もんじゃ焼きで有名な月島、佃煮屋さんの老舗がある佃島、さらに15分ほど歩き勝鬃橋を渡ると築地市場があります。北東方面は両国や浅草の下町文化が広がっています。越中島駅から京葉線で千葉方面へ3駅行きますと、まぐろの回遊水槽で有名な葛西臨海公園、4駅先に舞浜(ディズニーリゾート)、7駅先に東京湾三番瀬干潟で有名な船橋海浜公園(二俣新町)があります。また反対に東京方面に向かうと、たった2駅、5分で東京駅です。美術館や博物館、演劇や舞台などを鑑賞することもできますし、湾岸地域や隅田川沿い、近隣の運河をめぐるクルーズ船や屋形船も人気があります。東京駅発の「はとバス」のコ

ースも多数あります。さらに、皇居はランナーのメッカでもあります。朝早起きして1周約5kmのジョギングなどもお勧めです。今回の学会大会では、エクスカージョンが企画できませんでしたが、日程に余裕のある方は、これらを利用して東京を満喫していただけましたら幸いです。

第17回学会大会は、シンポジウムや講演会において「海」をテーマにすることとして計画を進めて参りました。1日目のシンポジウムでは、水辺の野外教育がどのように取り組まれてきたかということをご報告していただくとともに、「山」「川」および「人間」との関わりを考慮した水辺の野外教育の展望を見出す機会となることを目指します。また、講演会では夢や目標の重要性、および体験を通じて学ぶことの大切さを再認識し、我々学会員の取り組むべき課題を発見できる機会にしたいと考えております。これまでの学会大会の歴史では、「海」を主題とした学会大会は行われてきませんでした。東京海洋大学が会場でもありますことから、学会員の皆様が海に目を向け、海を知り、海を守り、海を活用するきっかけにもなればと考えております。

そのような学会大会を開催できますことは、私たち実行委員会にとっても大きな喜びです。全国からたくさんの皆様の参加をお待ちいたしております。

日本野外教育学会第17回大会実行委員会一同



日本野外教育学会 第17回大会 開催要項

1. 主催 日本野外教育学会
 主管 日本野外教育学会第17回大会 実行委員会 委員長 千足 耕一 (東京海洋大学)
2. 期日 2014年6月21日(土)～22日(日)
3. 会場 東京海洋大学 越中島キャンパス 〒135-8533 東京都江東区越中島 2-1-6

4. 大会日程

第1日目：6月21日(土)

- 8:30～ 受付【越中島会館2F 廊下】
- 9:30～11:30 **自主企画シンポジウム**
- 1) 『自閉症と豊かな暮らし ～キャンプ・ロイヤルから学ぶ～』【SCS 講義室】
 石田易司、竹内靖子(桃山学院大学)、野口和行(慶應義塾大学)
 - 2) 『若者よ野外に夢を ～今後の野外教育を考える～』【セミナー室2】
 徳田真彦(大阪体育大学大学院)、水津真委(びわこ成蹊スポーツ大学大学院)
 橋本和俊(京都教育大学大学院)
 - 3) 『野外教育における心理臨床的アプローチ ～事例に学ぶV～』【講堂】
 司会者：渡邊仁(筑波大学)・吉松梓(駿河台大学)
 話題提供者：向後佑香・坂本昭裕(筑波大学)、指定討論者：杉岡品子(北翔大学)
 - 4) 『子供たちの体験活動が増えた？
 ～調査から見える子供たちと私たちが見ている子供たちの体験の今～』【セミナー室1】
 齋藤雄(国立青少年教育振興機構)ほか
- 11:30～12:30 **ポスター発表①**【セミナー室3】 **実践報告**【セミナー室4】
- 12:45～ **開会式**【講堂】
- 13:00～15:20 **実行委員会企画シンポジウム(一般公開プログラム)**【講堂】
『水辺活動の教育的可能性』
 キーノートスピーチ：山下洋氏(京都大学フィールド科学教育研究センター教授)
 シンポジスト：松村純子氏(国立青少年教育振興機構)
 遠藤卓男氏(ブルーシー・アンド・グリーンランド財団)
 橋本啓氏(大阪YMCA 阿南国際海洋センター)
 コーディネーター：柳敏晴氏(神戸常盤大学教育イノベーション機構教授)
- 15:30～16:45 **口頭発表①**【講堂・SCS 講義室】
- 17:00～18:15 **総会**【講堂】
- 18:30～20:30 **懇親会**【学内食堂・マリソカフェ】

第2日目：6月22日(日)

- 8:30～ 受付【越中島会館2F 廊下】
- 8:45～10:55 **口頭発表②③**【講堂・SCS 講義室】
- 11:00～12:00 **講演会(一般公開プログラム)**【講堂】
『夢、挑戦、そして人とのつながり』 演者：白石康次郎氏(海洋冒険家)
- 12:20～12:50 **ポスター発表②**【セミナー室3】
- 13:00～15:25 **口頭発表④⑤**【講堂・SCS 講義室】
- 15:45～ **閉会式**【講堂】

5. 参加費および懇親会費（当日納入金額）

	参加費	懇親会費
正会員（一般）	6,000 円	3,500 円
正会員（学生）	3,000 円	2,500 円
団体会員	6,000 円	3,500 円

* 会員は抄録代を含みます

非会員	参加費	一般	学生
	1日目のみ	2,000 円	1,000 円
	2日目のみ	2,000 円	1,000 円
	両日とも	4,000 円	2,000 円
非会員	懇親会費	3,500円	

* 非会員は研究発表抄録代は別途2,000円



6. 受付時間および場所

両日とも8:30から越中島会館2F廊下にて行います。

7. クロークについて

応接室(2)をご利用ください。荷物をお預けの際に「控え」をお受け取りください。

貴重品はクロークに預ける荷物の中に入れず、各自で管理ください。

8. 昼食について

会期中、学内食堂は営業しておりません。大学近隣に食堂・コンビニ等がございます。

お弁当(要事前予約)を注文された方は、12:00より受付にてお受け取りください。

9. 休憩室について

応接室(1)をご利用ください。

10. 授乳スペースについて

授乳およびおむつ交換などは応接室(2)をご利用ください。受付にてお声掛けのうえ、ご利用ください。

11. 展示および書籍販売について

越中島会館2F廊下にて行います。

12. 会場までのアクセス

東京海洋大学越中島キャンパス

〒135-8533 東京都江東区越中島2-1-6 (<http://www.e.kaiyodai.ac.jp/access.html>)

○ JR 京葉線・武蔵野線「越中島駅」(各駅停車のみ) 2番出口 徒歩約5分

○ 東京メトロ東西線・都営地下鉄大江戸線「門前仲町駅」4番出口 徒歩約10分

○ 東京メトロ有楽町線・都営地下鉄大江戸線「月島駅」2番出口 徒歩約10分

*公共交通機関をご利用ください。大学構内への駐車はできません(事前に申請された場合のみ駐車可)。

13. 大会事務局

〒108-8477 東京都港区港南4-5-7

東京海洋大学海洋スポーツ健康科学研究室

TEL&FAX: 03-5463-4276 E-mail: 17th@joes.gr.jp

*大会開催期間中は、越中島キャンパス越中島会館2F準備室を大会事務局といたします。

口頭発表、ポスター発表、実践報告 スケジュール

<口頭発表①> 6月21日(土) 15:30~16:45

A会場：講堂

時間	番号	演題	発表者	座長
15:30	A-1	短期企業野外研修における選択登山が学習過程に及ぼす効果 ～Experiential Education Evaluation Formを活用して～	島崎晋亮・吉田理史(NPO法人信州アウトドアプロジェクト) 砂山真一(NPO法人ポジティブアースネイチャースクール) 岡村泰斗(backcountry classroom Inc.)	山田亮 (北海道教育大学 岩見沢校)
15:45	A-2	わが国におけるウィルダネス教育の活動実践の場についての検討 ～ウィルダネス教育の概念の整理に向けて～	西島大祐(鎌倉女子大学短期大学部) 岡田成弘(仙台大学) 岡村泰斗(backcountry classroom Inc.)	
16:00	A-3	冒険教育プログラム参加経験が参加者の自己肯定意識と対人関係性に及ぼす影響	前田純規(宇治市立御蔵山小学校) 遠藤浩(京都教育大学) 橋本和俊(京都教育大学大学院)	
16:15	A-4	我が国の組織キャンプでLeave No Traceは普及するのか ～参加者の自然に対する態度の評価を通じて～	岡村泰斗(backcountry classroom Inc.) 水津真委(びわこ成蹊スポーツ大学大学院) 林綾子(びわこ成蹊スポーツ大学) 松本千登世(大阪市立工芸高等学校) 岡田成弘(仙台大学)	
16:30	A-5	冒険教育プログラムを体験した大学生のアサーション行動に関する研究～小集団への適応感に着目して～	津々木健香(びわこ成蹊スポーツ大学大学院) 中野友博・林綾子(びわこ成蹊スポーツ大学)	

B会場：SCS講義室

時間	番号	演題	発表者	座長
15:30	B-1	野外活動におけるドラマチック体験と自己成長モデル構築の試み	末原美佐(国立阿蘇青少年交流の家)	白木賢信 (常葉大学)
15:45	B-2	教育キャンプが参加者の自己効力感、チーム効力感、集団凝集性に及ぼす影響	大杉夏葉・福田芳則(大阪体育大学) 徳田真彦(大阪体育大学大学院)	
16:00	B-3	チーム始動時におけるASEプログラム導入が集団凝集性に及ぼす影響	伊原久美子・大杉夏葉(大阪体育大学) 徳田真彦(大阪体育大学大学院)	
16:15	B-4	野外におけるSignificant Life Experience(SLE)と自己形成に関する研究(1)	水津真委(びわこ成蹊スポーツ大学大学院) 林綾子(びわこ成蹊スポーツ大学)	
16:30	B-5	キャンプカウンセラーに対する認知がキャンプモラルに及ぼす影響	橋本和俊(京都教育大学大学院) 遠藤浩(京都教育大学) 前田純規(宇治市立御蔵山小学校)	

<口頭発表②> 6月22日(日) 8:45~9:45

A会場：講堂

時間	番号	演題	発表者	座長
8:45	A-6	おきなわレッドデータブック掲載貝類と生存脅威	張本文昭(沖縄キリスト教短期大学)	伊原久美子 (大阪体育大学)
9:00	A-7	金沢における水辺活動の実際(1949-1962年頃)	山脇あゆみ(金沢学院大学)	
9:15	A-8	カッター研修に関する実態調査 ～青少年教育施設を中心として～	吉田章(水辺活動安全管理研究会) 結城光夫(国立青少年教育振興機構) 斎藤健司(筑波大学) 高嶋恭子(東海大学) 小出元一(小学館集英社プロダクション)	
9:30	A-9	バックカントリースキーツアーの安全対策と今後の課題	坂谷充(びわこ成蹊スポーツ大学) 井村仁(筑波大学)	

B会場：SCS講義室

時間	番号	演題	発表者	座長
8:45	B-6	キャンプ実習が大学生の社会的スキルに及ぼす影響	仲澤ゆき乃(フリーランス) 平野吉直(信州大学)	遠藤知里 (常葉学園短期大学部)
9:00	B-7	キャンプ実習が大学一年生の適応感に及ぼす影響	小松直紀(信州大学大学院) 平野吉直(信州大学)	
9:15	B-8	大学キャンプ実習におけるふりかえり活動の教育的効果	遠藤浩(京都教育大学) 川口絵奈子(亀岡市立亀岡小学校)	
9:30	B-9	大学キャンプ実習が参加者の主張性と対人関係性に及ぼす影響	沈 瀟(京都教育大学大学院) 遠藤浩(京都教育大学) 前田純規(宇治市立御蔵山小学校)	

<口頭発表③> 6月22日(日) 9:55~10:55

A会場：講堂

時間	番号	演題	発表者	座長
9:55	A-10	長期キャンプにおける参加者の自然感受体験と自然に対する態度の推移	岡田成弘 (仙台大学)	江川潤 (神田外語大学体育・スポーツセンター)
10:10	A-11	野外教育、海洋教育との比較を通じた森林教育の特徴の検討	井上真理子・大石康彦 (森林総合研究所多摩森林科学園)	
10:25	A-12	野外活動愛好家のガイド経験と環境保全意識	武正憲 (筑波大学大学院)	
10:40	A-13	適応の観点からみた野外教育における自然の意味 ～「快い」体験に注目して～	遠藤知里 (常葉大学短期大学部)	

B会場：SCS講義室

時間	番号	演題	発表者	座長
9:55	B-10	第16回日本ジャンボリー (30APRSJ) が参加者に及ぼす効果の一考察 ～国際的な集団野外生活が青少年に与える影響～	中野充 (新潟青陵大学) 齋藤雄 (独立行政法人国立青少年教育振興機構 構青少年教育研究センター)	築山泰典 (福岡大学)
10:10	B-11	スキー教室における自己概念の変容	守屋友貴・平野吉直 (信州大学)	
10:25	B-12	国立青少年教育施設の挑戦-新しい公共型運営について ～国立赤城青少年交流の家の事例から～	高瀬宏樹 (国立赤城青少年交流の家)	
10:40	B-13	韓国の青少年教育施設に関する調査	藤江龍 (国立青少年教育振興機構国立三瓶青少年交流の家) Lee Hyeon Cheol (韓国青少年活動振興院)	

<口頭発表④> 6月22日(日) 13:00~14:00

A会場：講堂

時間	番号	演題	発表者	座長
13:00	A-14	大学のキャンプ実習における身体活動量に関する研究	青木康太郎・粥川道子 (北翔大学) 結城光夫 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 藤江龍 (国立三瓶青少年交流の家)	黒澤毅 (びわこ成蹊スポーツ大学)
13:15	A-15	一般体育授業が大学生の環境配慮に及ぼす影響 ～特にアウトドアの授業に着目して～	井上望 (駿河台大学スポーツ教育センター 非常勤講師)	
13:30	A-16	農業体験実習が大学生の自己意識に与える影響 ～農業体験前後の意識変化～	谷伊織・ほしの竜一・居崎時江・小島雅生 (東海学園大学)	
13:45	A-17	教育キャンプ参加者の社会人基礎力の変容 ～3年間の継続的データに着目して～	徳田真彦 (大阪体育大学大学院) 大杉夏菜・福田芳則 (大阪体育大学)	

B会場：SCS講義室

時間	番号	演題	発表者	座長
13:00	B-14	A Leisure Construct in Poetry Setting and Its Implications for Outdoor Education	Ya Na・Philip Wang・Grant Wang (Kent State University)	岡田成弘 (仙台大学)
13:15	B-15	Seeing Japan: Americans' Perceptions of Hiroshige's Tokaido Landscape	Ayumi Ishihara・Philip Wang・Qian Zhang・ Alexandra James・Takahiro Sato (Kent State University)	
13:30	B-16	Beauty in the Eye of the Beholder: of Brand Personality and American National Parks	Qian Zhang・Philip Wang・Ayumi Ishihara・ Alexandra James・Takahiro Sato (Kent State University)	
13:45	B-17	Staycation's environmental savings, economic benefits, and partnership development with outdoor education	Alexandra James・Philip Wang (Kent State University)	

<口頭発表⑤> 6月22日(日) 14:10~15:25**A会場：講堂**

時間	番号	演題	発表者	座長
14:10	A-18	キャンプ経験が幼児の自立に与える影響(2)	森田彩虹(信州大学大学院) 平野吉直(信州大学)	花田道子 (九州共立大学)
14:25	A-19	長期宿泊・自然体験学習における活動プログラムの意義	金本拓也(桃山学院大学社会学研究科) 石田易司(桃山学院大学)	
14:40	A-20	自然体験活動における上級指導者養成のコーチングに関する一考察	関智子・岡島成行 (国立青少年教育振興機構)	
14:55	A-21	知的活動による野外教育 ～野性の森における事例から～	大石康彦・井上真理子 (森林総合研究所多摩森林科学園)	

B会場：SCS講義室

時間	番号	演題	発表者	座長
14:10	B-18	被災地支援キャンプから見る子供の心理状況	及川未希生(国立岩手山青少年交流の家)	吉松梓 (駿河台大学)
14:25	B-19	非行少年を対象としたアウトドア体験療法の成果	小林祥之(国立立山青少年自然の家) 平野吉直(信州大学)	
14:40	B-20	東日本大震災における心のケアキャンプの検討 ～みどりの東北元気キャンプを中心に～	柴田卓(東北福祉大学非常勤講師) 大熊雅士(NPO法人げんきプログラム作成委員会)	
14:55	B-21	統合型キャンプが不登校児童生徒の自己イメージに与える影響 ～受容感との関連からの検討～	黒田拓史(鈴鹿市立旭が丘小学校)	
15:10	B-22	野外教育で伸びる力における考察 ～キーコンピテンシーの側面から～	清水一毅・岡林春雄(山梨大学大学院)	

<ポスター発表> 6月21日(土) 11:30~12:30 / 6月22日(日) 12:20~12:50**セミナー室(3)**

番号	演題	発表者
P-1	青少年の体験活動等に関する実態調査(平成24年度調査)の報告	齋藤雄(国立青少年教育振興機構)
P-2	キャンプ体験が児童のコーピングと自尊心に及ぼす影響	兄井彰(福岡教育大学)
P-3	生活習慣向上長期キャンプにおける児童の身体活動量とコンピテンスの変容	庄子佳吾・阿部広之 (国立花山青少年自然の家)
P-4	大学スキー実習中における参加者の疲労状態	中丸信吾・菅波盛雄 (順天堂大学スポーツ健康科学部)
P-5	PDCAサイクルとCBTの知見を援用したスキー授業学習支援ツールの開発 ～メンタルヘルスの保持増進を目指した実践～	石川国広(東京工業大学社会理工学研究所) 村井伸二(玉川大学学術研究所)
P-6	キャンプにおける自己概念の変容に関するメタ分析	向後佑香・坂本昭裕(筑波大学)
P-7	発達障害児におけるキャンプが及ぼす効果について ～自尊心に着目して～	大友あかね(筑波大学大学院) 坂本昭裕・澤江幸則(筑波大学)
P-8	大学生を対象とした農業体験学習における教育効果の検討 ～農業イメージ尺度とキャリア意識の関連から～	居崎時江・谷伊織・小島雅生・ほしの竜一 (東海学園大学)
P-9	航海計画を伴うセーリング実習による心理的影響に関する研究	久保田秀明(創価大学)
P-10	自然体験活動は体験教育として成りうるか ～活動における支援過程に着目して～	村井伸二 (玉川大学学術研究所心の教育実践センター)

<実践報告> 6月21日(土) 11:30~12:30**セミナー室(4)**

番号	演題	発表者
R-1	青少年教育施設における幼児期の自然体験活動 ～国立立山青少年自然の家での取り組み～	福富優・小林祥之 (国立立山青少年自然の家)
R-2	高校における水辺活動を取り入れたプールでの体育授業の実践	松本英樹 (大阪教育大学附属高等学校平野校舎)
R-3	必修専門基礎科目における「マリンスポーツ体験」 ～スノーケリング実習の教育効果～	遠矢英憲・東恩納玲代・前川美紀子・田原亮二・石橋千征(名桜大学)
R-4	幼児を対象とした絵本でつくるワークショップ	瀧直也(淑徳大学)
R-5	幼児の社会的スキル向上について(一考察)	室井修一(国立妙高青少年自然の家)
R-6	「能登・乗鞍 施設間連携事業 自立心を育む体験プログラム」の実践報告	田尾一朗(国立乗鞍青少年交流の家)
R-7	東京海洋大学におけるサバニレースへの取り組み	千足耕一・蓬郷尚代(東京海洋大学)